

セコムメディカルグループは、 「ケアの倫理」活動に取り組んでいます。

～ 質の高い医療・ケアを提供するために～

セコムメディカルグループでは、信頼される医療・ケアを提供するため、患者様・利用者様の人権や尊厳を尊重した組織づくりを目指しております。

その主たる活動として、2012年度より「ケアの倫理」研修を開始いたしました。この研修は、中京大学大学院教授 稲葉一人先生を中心とした当該分野の第一人者である講師陣の協力を得て、企画・実現したものです。

医療分野における倫理問題と聞いて思い浮かべるのは、臓器移植や輸血等の問題ですが、ここで取り上げるのは、もっと身近な、日常の診療やケアの中に潜むものです。その多くは患者・患者家族と医療・介護の専門職との間における、また専門職同士のそれぞれの立場や考えの違いから生じる問題で、例えば高齢者や認知症患者の治療に対する意思決定や抑制の問題などが該当します。これらの問題は、超高齢社会を迎えた日本において、多くの医療者・ケアの担い手が直面するものですが、まず倫理的な問題と気づきにくく、どのように取り組み、解決すべきかもわからないのが一般的です。

そこでセコム医療システム株式会社は、倫理的問題に直面した関係者、つまりサービス提供側にある現場の我々自身の不安を解消するとともに、患者様・利用者様の尊厳を尊重したより質の高い医療・ケアを提供できるよう、まずはこれらの問題を倫理問題と認識し、議論できるようになるための基本的知識を身に付けること、そして医療・法律・倫理的アプローチを用いて「現場で解決できる」能力を高めることを目的に研修の取り組みを始めました。

この活動を通じて、セコムメディカルグループはより信頼される医療・ケアを目指してまいります。

< 活動紹介 >

2012年度「ケアの倫理」リーダー養成研修

プログラム内容

- 1年目
1. 日常診療に潜む倫理問題とは何か？
 2. 医療倫理の原則と重要概念
 3. 臨床症例の倫理的検討法
 4. 終末期の倫理と法
 5. 医療者の義務と事故
 6. 人間関係調整の技法
 7. 事例検討会
- 2年目
1. 複数の事例を用いたロールプレイと検討会

講師陣

- 稲葉 一人先生 中京大学法科大学院教授
久留米大学医学部客員教授
熊本大学大学院客員教授
東京大学大学院医学系研究科客員研究員
- 加部一彦先生 総合母子保健センター 愛育病院新生児科部長
- 箕岡真子先生 東京大学大学院 医学系研究科 医療倫理学分野 客員研究員
箕岡医院 内科医師 院長
- 水澤久恵先生 西武文理大学看護学部 講師
- 長尾式子先生 神戸大学大学院保健学研究科 看護学専攻 助教
- 馬場葉子先生 横浜労災病院 看護師長

事務局

セコム医療システム株式会社
「ケアの倫理」研修事務局 TEL:03-5775-8150



信頼される安心を、社会へ。

SECOM
セコム医療システム株式会社

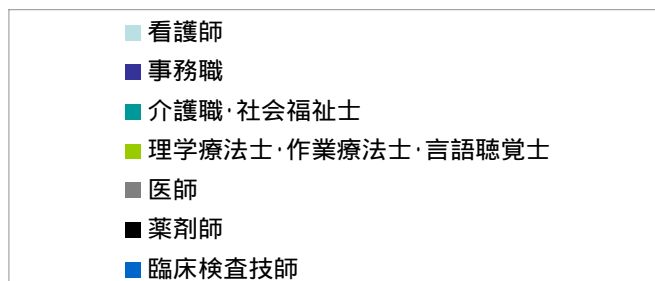
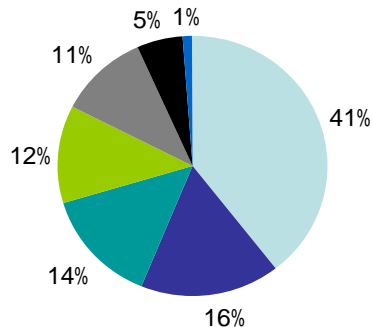
2012年度 活動のご紹介 (研修実績)

2012年度は札幌、東京、関西で計4回の「リーダー養成研修」を実施いたしました。セコムメディカルグループの提携医療機関、シニアレジデンス、またセコム医療システム(株)で在宅医療や介護に携わる職員他職種が一同に会し、実際にあった事例をもとに非常に積極的な事例検討が行われました。2013年度は、より現場での実践に活かせる内容を盛り込み、フォローアップ研修を実施していきます。

【参加者概要】

参加者人数： 計92名

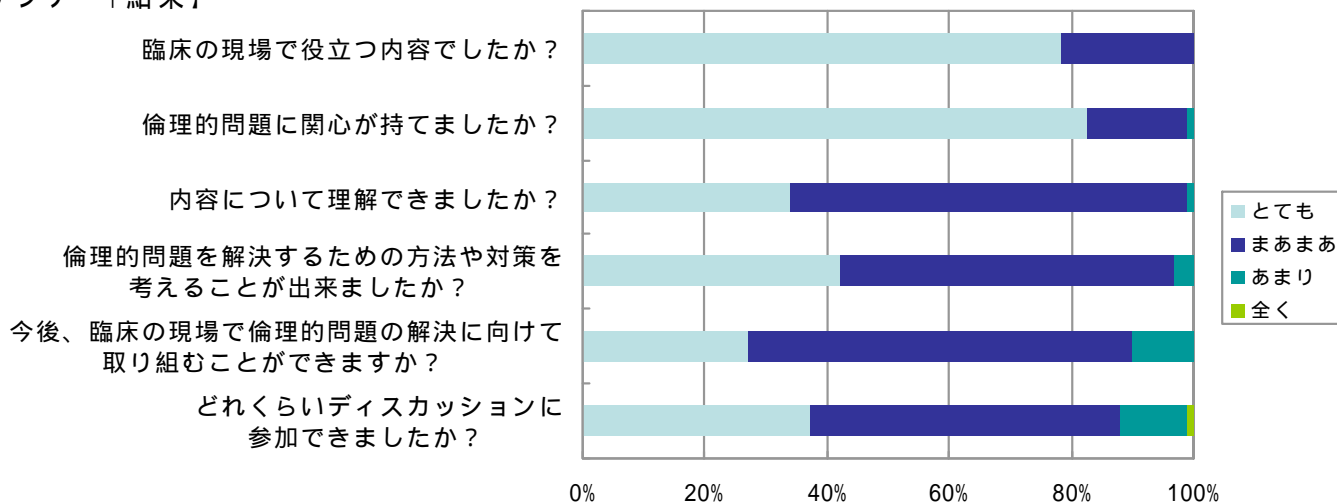
職種：



平均経験年数： 約18年

倫理研修の受講経験： あり・・・41% (認定教育、院内研修など) なし・・・59%

【研修後アンケート結果】



参加者コメント

- ・臨床の現場で働いていると、どうしても、そこにいる職種だけで問題を解決しようとしてしまう。他の職種サポートを得て、広い視点で考えていく重要性を理解できた。
- ・事例検討を行うことで、色々な視点を学ぶことができたと考えます。日々の小さなことでも数人で話すことにより、底に潜んでいる問題点に気がつくことができるということを実体験できました。
- ・判決例、医療的知識など一定レベルの知識が倫理を考えるスタートであり、情報が十分かどうか理解できる視点を持つために4分割法は有効であると感じました。
- ・知識の少ない法的な面からも教えていただけたため、不安が解消された部分もある。内容も難しい部分もあったが、わかりやすかった。
- ・日頃、ディスカッションが不足していることを実感。まず、倫理カンファを開くことから始め、トレーニングを積むことが病棟全体のレベルアップにつながると思いました。
- ・マネジメントをする立場として、患者側の倫理的問題に気付くことに一生懸命であったが、職場のスタッフのケア(心の)をする意味でも、倫理的問題に目をそむけてはいけないと思った。視野を広くし、ネットワークを広げ、チームでアプローチする大切さを学ぶことができた。とてもいい機会を頂いたことに感謝します。
- ・自分の中であいまだった安楽死の問題、延命措置の問題など、掘り下げて考える道筋をつけていただいたように思います。また、日々の自分を含め、スタッフがかかってくる直感的な違和感を大切に、分析、ディスカッションを重ねていけたらと思います。

